

## 5 埋伏乳歯の2症例

○牧 憲司、日高彰子、高江洲 旭、  
高橋宙丈、松田容士子、木村光孝

### 九歯大・小児歯

歯の萌出異常の1つである埋伏は、永久歯においては日常の臨床において遭遇することはしばしばあるが、乳歯における埋伏は非常に稀とされている。

乳歯の埋伏の原因については、全身の発育障害、くる病、先天性梅毒、内分泌障害、遺伝などの全身的なものが考えられる。また局所的なものとしては、先行乳歯の早期脱落に伴う隣接歯の近遠心的転位、骨硬化、軟組織の線維性肥厚、外傷、乳歯自体の萌出力の低下や歯牙の萌出メカニズムなどが関与していると考えられる。部分的には乳臼歯が最も多く、次いで乳犬歯、乳切歯の順である。

今回演者らは、乳歯埋伏の2症例を経験したのでX線学的立場から報告する。

症例1は、26歳の女性で、パントモ所見、歯根尖撮影X線フィルムから埋伏歯牙の歯冠形態および位置により第二乳臼歯と判断した。歯根は不規則な吸収所見が認められるため何らかの外的刺激により歯根の発育が阻害され、埋伏したものと推察された。

症例2は、18歳の女性であり、パントモ所見、歯根尖撮影X線フィルムから埋伏歯牙の歯冠と形態および位置により第二乳臼歯と判断した。原因としては、下顎左側第二小臼歯の原基が第二乳臼歯の咬合面側に達した時期に何らかの原因で残留し、そのために第二乳臼歯が萌出を障害され埋伏したものと推察された。